

平成26年度（25年度事業対象） 宍粟市教育委員会事務事業評価結果

《就学前教育・保育》

基本目標 1 0歳から就学前まで、すべてのこどもの教育・保育の充実

- 実践目標 1 発達及び生活の連続性に配慮した保育の充実
 2 発達や学びの連続性を踏まえた教育の充実
 3 自立と協同の態度の育成と人権教育の推進
 4 教育・保育の新たな環境づくり

※評価指標
 「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる
 「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

| 基本目標に対する推進方針 | ◆成果指標（意図や達成度を示す指標） ◇実績値 ※数値では表し難い成果や実施状況 | 取組の成果及び今後の課題 | 自己評価 | 委員の意見・感想 | 委員評価 |
|---|--|--|------|---|------|
| 「しろうこども指針」に基づき、各幼稚園・保育所において地域の特性や子どもの発達に応じた教育・保育内容の充実を図ります。 安定した生活やよりよい環境を構成し、豊かな心情や物事に自ら取り組もうとする意欲、健全な生活を営むために必要な態度、基本的生活習慣等を育むとともに、幼児一人一人の興味や関心に基づいた直接的な体験を通して「生きる力」の基礎を育成します。 | ◆教育・保育内容の充実：保護者の肯定度、地域や異校種間交流を実施している幼稚園・保育所の割合 ◇保護者の肯定度（幼稚園・公立保育所の保護者アンケートより） ・子どもは毎日喜んで幼稚園・保育所に行っている 幼98.6% 保94.5% ・行事等でわが子の成長が感じられる 幼96% 保91% ・教育方針や子どもの生活や遊びの様子がよくわかる 幼94% 保96.7% ◇小学校との交流を実施している割合 ・教師間の交流 幼100% 公立保 100% 私立保 77.7% ・幼児・児童・生徒間の交流 幼100% 公立保80% 私立保100% ◆職員研修の充実・・・研修に参加している園・所の実績 ◇宍粟市教育研修所事業への参加（14回開催）参加延べ人数 ・幼稚園・・・272人 ・公立保育所・・・111人 ・私立保育所・・・41人 ※保育所は近畿・県・西播保育協会等の研修にも参加 ◆幼保一元化事業の推進：推進状況 ◇千種幼保一元化協議会が設置され、25年度は7回の協議会が開催された。 | ○公立幼稚園・保育所における教育・保育内容の充実について、子どもの育ちを保護者がどのように感じられているか、アンケートを実施し、概ね肯定との結果が出ていることから、各園所の取り組みが成果につながっていると考えられる。 更に市内すべての幼稚園・保育所での教育・保育内容の充実が図れるよう異校種間連携や、 保育日数や保育時間が長いなど研修へ参加がしづらい環境なども 保育所の課題を検討していく必要がある。 ○千種幼保一元化協議会では、3つの部会（総務部会、環境整備部会、幼児教育・保育部会）がおかれ、保護者、地域、運営主体、市の4者による合意形成を図りながら協議が進められている。 今後も課題を整理しながら子どもにとってのより良い環境を目指して検討を継続していく。 | B+ | ○保護者アンケートから保護者の幼稚園・保育所への肯定度は高率である。引き続き幼児理解に努め、豊かな人間性の基礎づくりに努めてほしい。 保育所保育士の研修参加について、現場を重視すると難しい点も理解できるが、環境整備により一人でも多くの保育士が研修に参加できるよう努めてほしい。 ○千種での幼保一元化の取組については、市内保護者の関心も高く、今後の市の幼保一元化のあり方の基本となる。地域・保護者の理解を得よう丁寧な説明と着実な協議で進めてほしい。 | B+ |

基本目標 2 安心で楽しい子育てと健やかにこどもが育つ環境づくり

実践目標 1 幼稚園や保育所が身近に感じられる子育て支援の充実

※評価指標
 「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる
 「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

| 基本目標に対する推進方針 | ◆成果指標（意図や達成度を示す指標） ◇実績値 ※数値では表し難い成果や実施状況 | 取組の成果及び今後の課題 | 自己評価 | 委員の意見・感想 | 委員評価 |
|--|--|--|------|---|------|
| 保護者や子育て家庭が、子育てに喜びと自信をもち、子育ての大切さや喜びが実感できるよう、子育て力向上にむけた事業の実施や環境づくり等の支援に取り組めます。また、ライフスタイルに応じて安心して子育てができる教育・保育環境づくりを推進します。 | ◆地域における幼児教育センターとしての機能の充実度 ◇通信・園報・ホームページによる情報提供の工夫…情報提供を実施している園・所の割合 ・園だより等通信を保護者に提供している 幼100% 公立保100% 私立保100% ・園だより等通信を地域にも提供している 幼86.6% 公立保20% 私立保77.7% ・ホームページ等により公開している 幼 無 公立保（市ホームページに公立保育所の特色として掲載有り）私立保 6園ホームページあり（市のホームページにも保育所の特色として掲載有り） ◇子育て支援事業の開催を実施している園・所の割合 ・園庭開放 全園所実施 ・行事参加 幼93.3% 公立保80% 私立保77.7% ・講演会実施 幼20% 公立保0 私立保11.1% ・子育て相談実施 幼26.6% 公立保60% 私立保100% ・保育参加 幼33.3% 公立保20% 私立保77.7% ・まちの子育てひろば等（乳児教室や定期的に開催しているもの）幼80% 公立保60% 私立保100% ◆健康づくりの推進：食育への関心が向上した保護者の割合、生活習慣改善への保護者の肯定度 ◇食育への関心度向上（平成25年度宍粟市内幼稚園保育所保護者食育に関するアンケートより） ・食育の言葉と意味を知っている割合 73.6% ・食育について関心がある割合 85.8% ・毎朝朝食を食べている幼児の割合 95.7% ◇生活習慣の改善（幼稚園・公立保育所保護者アンケートより） ・早寝早起き朝ごはんなど生活習慣のリズムが良くなった 幼95.8% 公立保80.7% ・食育活動により食習慣の改善に効果があった 幼94.7% 公立保87% | ○市内各幼稚園・保育所において、通信の発行やホームページを利用しての情報発信に努めている。また、子育て支援事業の開催も積極的に取り組んでいるが、少子化の中、近所に友だちが少なく、孤立化している保護者もあるので、地域への情報発信や他の子育て支援機関とのネットワークづくりを推進し、利用しやすくしていく必要がある。 ○幼稚園・保育所での健康づくりの推進については、食育や生活習慣改善について、保護者の意識にも向上が伺われるが、今後も啓発活動の継続した取組をしていくことが必要である。 | B+ | ○園所だよりはは全ての園所でされているが、地域・家庭への情報発信をさらに進めてほしい。 一人ひとりの子どもの様子を把握し、家庭と連携して園所・家庭両方で保育・教育を進めることが大事であり、さらにきめ細やかな情報提供と連携に努めてほしい。 ○食べることは心身の発達に大きく影響するものであり、夜型の生活環境の改善や朝食の摂取など、保護者の理解を得ながら、引き続き園所で大事に取り組んでほしい。 | B+ |

平成26年度（25年度事業対象） 中央市教育委員会事務事業評価結果

《就学前教育・保育》

基本目標 3 みんなが子育てに関心を持ち、見守り支援する地域社会の構築

実践目標 1 社会全体でこどもを育てる環境づくり

※評価指標

「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる
「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

| 基本目標に対する推進方針 | ◆成果指標（意図や達成度を示す指標） ◇実績値 ※数値では表し難い成果や実施状況 | 取組の成果及び今後の課題 | 自己評価 | 委員の意見・感想 | 委員評価 |
|--|---|--|-----------|--|-----------|
| <p>家庭や地域との連携を図り、地域の特性を活かした教育・保育活動を進めるとともに、積極的な情報の提供、園所評価結果の公表、地域の教育力の活用などを行い、教育・保育活動に理解や支援が得られる取組を推進します。</p> | <p>◆園所評価システムの充実と推進：自己評価及び外部評価を実施している園・所の割合 ◇公立幼稚園・公立保育所全てで関係者による評価と報告を実施 ・平成25年度 公立保育所の関係者評価と報告を実施した（5所） ◇私立保育所の保育士等および保育所の自己評価の実施 ・保育士等の自己評価実施 55.5% ・保育所の自己評価実施 22.2% ・実施していない 33.3% ◇地域、保護者への評価結果の公表 ・評価結果の公表をしている 幼100% 公立保60% 私立保22.2% ・公表の範囲 学校園所関係者 幼100% 公立保100% 私立保0% 保護者 幼46.6% 公立保60% 私立保22.2% 地域住民 幼53.3% 公立保0% 私立保0% ◆地域人材の積極的な支援体制：読書ボランティア活動の推進状況 ◇読書ボランティア、絵本の読み聞かせ実施状況 ・読書ボランティアの協力を得ている割合 幼100% 公立保100% 私立保77% ・読書ボランティアの分類 保護者72% 地域住民（学生を除く）76% 学生62% その他（司書等）34% ◇保護者肯定度（絵本に親しむ子の増加）※幼稚園・公立保育所保護者アンケートより ・子どもは絵本の読み聞かせを喜んでいる 幼88.2% 保83.1%</p> | <p>○園所評価の実施を公立では全園所において達成できたが、特に保育所は地域への発信に課題があるので、説明責任を果たせるよう、公表に取り組んでいく必要がある。 また、私立保育所の取り組みについても推進を図りたい。</p> <p>○読書ボランティア推進事業等の活用により、地域人材の支援・協力体制が進みつつある。 私立保育園でも意識化がされつつあるので、今後も推進事業の継続した取り組みが必要である。</p> | <p>B-</p> | <p>○園所自己評価の保護者等への公表について、難しい問題であるが乗り越える必要もある。今後の課題として取組を検討してほしい。</p> <p>○読書ボランティア以外にも地域の多くの皆さんの支援や協力も得ている。引き続き畑の先生や絵本の先生など、各分野で地域や近所の方々との関わりが多く持てるようにしてほしい。 他に、子ども達が自分達が住んでいる地域の歴史や言い伝えなどの地域資源を知ることで、地域への誇りを持ち、大きくなくても住み続けることにつながるかもしれない。園所でも”ふるさと探検”などの取組も検討してほしい。</p> | <p>B-</p> |

平成26年度（25年度事業対象） 宍粟市教育委員会事務事業評価結果

《学校教育》

基本目標 4 宍粟に生き、宍粟を活かす人づくり

実践目標 1 宍粟の良さを知り、宍粟を愛する子どもの育成
2 宍粟で”生きる”キャリア教育の推進
3 宍粟につながる進路指導の推進

※評価指標
「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる
「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

| 基本目標に対する推進方針 | ◆成果指標（意図や達成度を示す指標） ◇実績値 ※数値では表し難い成果や実施状況 | 取組の成果及び今後の課題 | 自己評価 | 委員の意見・感想 | 委員評価 |
|--|--|--|------|--|------|
| 基本目標の達成に向けては、児童・生徒一人一人の心の中に郷土への愛情・愛着を育み、“宍粟で生きたい”“育ってよかった”と思える気持ちを、より大きく育てるための取組が必要になります。併せて、現実に宍粟で生計を立てることができるよう、地域の特性や産業構造を踏まえた能力開発や職業観・勤労観を育成するとともに、進路への意欲・関心の高揚などを図ることが重要です。このことから『宍粟の良さを知り、宍粟を愛する子どもの育成』と『宍粟で”生きる”キャリア教育の推進』の二つの施策を車軸の両輪として推進します。 | 地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」生徒アンケート結果から ①自分にとって、「トライやる・ウィーク」の一週間は充実していた。98.0% ②「トライやる・ウィーク」が終わってからも、「トライやる・ウィーク」をきっかけに知り合った人たちを訪ねたいと思う。59.5% 地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」関係者（受入事業者）アンケート結果から ①「トライやる・ウィーク」に参加した中学生の取組は意欲的だった。100% ②「トライやる・ウィーク」は地域にとっても有益な活動である。97.7% 〈受入事業者の感想から〉 ・自身、中学生の時に「トライやる・ウィーク」に参加させていただき、今その時にお世話になった同じ職種に就いています。彼、彼女たちが今後自らの進路を選択する際にこの経験が意味を持つかもしれません。その自覚を持って関わりたいと思っています。 ・自分が「トライやる・ウィーク」でこんな風にお世話になっていたのかと思い、感謝の気持ちでいっぱいです。また、自分が「トライやる」で職業体験したことで、進路が決まったので今の中学生の中でもこんな仕事をしてみたいと思ってもらえるように関わっていききたいです。 | ①地域の教育資源を活用した系統的体験活動の実施 ・宍粟を愛する子どもたちを育てるため、意識して取り組んでいるが、短期的に成果を求めることは難しい。 ②地域の教育力を活用した体験学習の推進 ・各学校現場で工夫した取組を行っているが、常に新たな地域人材に関する情報を収集していく必要がある。 ③千種中学校・千種高校の中高連携教育促進 ・千種中学校・千種高等学校での取組は充実しているが、他の中学校・高等学校に取組を拡大していくことは県立学校との連携の難しさがある。 ④地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」の推進（対象：中学校2年生） ・実施から15年以上が経過し、事業としては成熟して効果などについては県レベルで検証が進んでいる。学校としても実践発表会実施時に事業所から意見をいただくなど事業の改善に努めているが、宍粟市教育委員会事務局としても地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」期間中に巡回視察を行うなど現状における課題を収集、学校における指導に役立てている。 | B+ | ○トライやる受入事業所の中学生への評価は高く、今後も継続して受け入れるという声も聞いている。市内北部校は生徒数も少なくなっているが、地域内の仕事を知り地域に根付くように、今後もどんどん取組を進めてほしい。 ○中高連携で地域とのつながりも学んでいるように思う。地域の方々と一緒に活動することで地域に残ってくれることも考えられる。千種校区以外の校区でも、形を変えた取組を検討し進めてほしい。 | B+ |

基本目標 5 社会の変化に対応する学校づくり

実践目標 1 市の特性を踏まえた学校規模の適正化
2 宍粟型小中一貫教育の推進
3 多様なニーズに応える学習指導の確立
4 読書活動を活かした教育活動の充実

※評価指標
「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる
「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

| 基本目標に対する推進方針 | ◆成果指標（意図や達成度を示す指標） ◇実績値 ※数値では表し難い成果や実施状況 | 取組の成果及び今後の課題 | 自己評価 | 委員の意見・感想 | 委員評価 |
|---|--|---|------|--|------|
| 社会の変化に的確に対応し、将来にわたって子どもたちが”生きる力”を身につけられる教育環境を確立していくため、地域の実情を配慮しつつ、本来あるべき学校の教育機能の確保と充実をめざして学校規模の適正化を推進していきます。 また、全ての中学校区で宍粟型小中一貫教育を進め、教職員の意識改革を図るとともに、子どもたちの健やかな成長を図るため、義務教育9年間の連続した教育体制を構築します。 | ①学校規模適正化を着実に実施する。 ・学校規模適正化推進計画に基づく再編予定校区数10校 《実施の状況》 H26.4.1現在 17校 《今後の予定》 H28.4.1時点 13校 ・懇談実施状況《25年度末時点開催回数》 （地区協議会） 新校開校に向けて必要な事項を協議する組織 ①土方・菅野小学校区：6回②波賀中学校区：5回③一宮北中学校区：3回 （地域の委員会） 適正化実施の地域の方向性を決定する組織 ①伊水・都多小学校区：4回②一宮南中学校区：6回③山崎南中学校区：3回 ・児童・生徒・保護者・地域住民の満足度 ★24年4月開校《千種小学校》 小学校が一つになり、子ども達に良い影響を与えているか。 とても良い41% 良い57% あまり良くない1% ★26年4月開校《山崎西小学校》 保護者・地域住民・学校代表・教委事務局により適正化実施の検証委員会設置を決定。 | ①学校規模適正化実施のねらいは、一定の集団規模の中で生活することで児童の「生きる力」をつけることであり、24年4月開校の千種小学校で2年目のアンケートを実施した結果、次のような回答が多かった。 ●24年4月適正化実施《千種小学校》25年度保護者・地域住民アンケート回答の主な内容 ・旧3校それぞれの特徴が子ども達に良い方向に活かされ、友達も増えて喜んでいる。 ・地域・学年関係なく子ども達は交流を深め学校生活を楽しんでいる。統合したと感じないほど一つにまとまっている。 ・学校が地域とのつながりを大切にしていることが各種行事から感じられる。 など 引き続き、保護者・地域住民との協議を重ね、学校規模適正化の推進を図り、児童の育成に努めていく。 ②宍粟型小中一環教育の推進 ・全中学校区で積極的に推進しているが、さらに踏み込んだ取組を進めていく必要がある。 ・幼保小中で一貫して連携教育を実施する組織の立ち上げが必要である。 ③小学校における教科担任制の実施 ・県の進める兵庫型教科担任制（新学習システムの推進）を活用して実施している。 | B+ | ○子ども達が社会性を学ぶためには一定の集団の確保も必要と考える。一方で地域も大事にできるよう、学校規模適正化の推進については、引き続き丁寧な説明と意見交換に努めてほしい。 ○宍粟の小中一貫教育の取組は進んでいると思うが、引き続き、宍粟の一貫教育のめざす姿などを模索しながら取組を進めてほしい。中1ギャップなどがあるが、子どもがギャップなく馴染めることが地域での人間関係を作って社会性を育てることにもつながり大事なことであるので、引き続き小中学校の滑らかな接続に向けて取組を進めてほしい。 | B+ |

平成26年度（25年度事業対象） 宍粟市教育委員会事務事業評価結果

《学校教育》

基本目標 6 教師力を高める学校づくり

実践目標 1 学校園所・教職員の主体的な研修の促進
2 学校園所・教職員組織の活性化
3 宍粟市教育研修所の機能強化

※評価指標
「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる
「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

| 基本目標に対する推進方針 | ◆成果指標（意図や達成度を示す指標） ◇実績値 ※数値では表し難い成果や実施状況 | 取組の成果及び今後の課題 | 自己評価 | 委員の意見・感想 | 委員評価 |
|---|--|--|------|--|------|
| 教職員には、自らが研修に取組み、資質の向上を図ることが求められています。学校園所や教職員が自主的に研修に取り組むことを支援するため、研修体制の整備を図るとともに、優れた研究については評価する仕組みを整えます。 市教育委員会として取り組む必要があると考えられる課題等については、積極的に研修の場を設定します。また、市教育研修所を研修の中核センターと位置づけ、機能の強化と特色化をめざすとともに、他の教育期間との連携により、研修のマネジメントも含めた研修内容の充実を図ります。 | 平成25年度全国学力・学習状況調査アンケート結果より「教職員は校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させている。」 小学校 100% 中学校 100% | ①校内研修の実施 ・研究授業ならびに公開授業の実施率は100%である。 ②西播磨、播磨西、西人教、市教委指定による研修推進 ・着実に研修を推進している。 ③教職員の能力開発促進 ・ライフステージ研修については回数・内容とも充実してきている。 ④大学との連携推進 ・兵庫教育大学ならびに近大姫路大学との連携については年々拡大して実施できている。 | B+ | ○教員に研修が求められている時代でもあるが、小規模校ほど研修機会が負担になる時もある。教員の過度の負担とならないよう、研修内容の精査など、検討もして研修に取り組んでほしい。 | B+ |

基本目標 7 地域総がかりの学校づくり（「チーム宍粟」の実現）

実践目標 1 「チーム宍粟」教育推進体制の確立
2 家庭・地域と連携した教育活動の充実
3 教育現場の裁量拡充と支援体制の構築

※評価指標
「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる
「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

| 基本目標に対する推進方針 | ◆成果指標（意図や達成度を示す指標） ◇実績値 ※数値では表し難い成果や実施状況 | 取組の成果及び今後の課題 | 自己評価 | 委員の意見・感想 | 委員評価 |
|--|---|---|------|---|------|
| 宍粟の学校運営にかかわる全ての大人を一つのチームとした、“地域総がかり”の学校支援体制「チーム宍粟」の構築に向けて取り組みます。支援者である地域の大人の役割分担を明確にし、共通の目的や行動基準を定める必要があることから、「チーム宍粟」の「アクションプラン（行動計画）」として明文化するなど、連携体制の確立に向けた取組を推進します。 また、「チーム宍粟」の教育活動への参加を促すため、新たなプログラムの研究を進めます。加えて、教育委員会では、教育現場の状況把握に努めるとともに各学校や校区の実情に応じた事業展開を図るため、予算の配当及び執行等に関して事務の改善に取り組みます。 | 平成25年度全国学力・学習状況調査アンケート結果より ①「あなたの学校ではPTAや地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれますか。」 小学校 100% 中学校 100% ②「保護者や地域の人の学校支援ボランティア活動は学校の教育水準の向上に効果がありましたか。」 小学校 94.4% 中学校 100% | ①PDCAサイクルによる学校運営改善の実施 ・各学校において着実に実施できている。 ②読書ボランティア支援による読書活動の推進 ・読書ボランティアによる学校支援は年々充実してきているが、宍粟市全体での組織化ができていない。 ③地域人材と連携した授業の実施 ・地域人材と連携した授業の実施は推進しているが、高齢化が進んでおり、新たな人材の発掘が急務である。 ④勤務時間適正化推進状況調査の実施 ・勤務時間適正化対策プランの推進状況調査は確実に実施している。 ⑤業務改善推進委員会の開催 ・業務改善推進委員会については着実に実施しているが、会の運営方法・メンバーなどについては工夫の余地がある。 ⑥校務支援ソフトの導入など、教職員の事務的な負担を軽減し、こどもと触れあう時間を確保するための支援を進める必要がある。 ⑦学校長がめざす特色ある学校づくりを支援する新たな事業を考えしていく必要がある。 | B- | ○教員のメンタル面の健康を守るよう、教員の過度の負担とならないよう、引き続き勤務時間の適正化や支援ソフトの導入による負担減などに努めてほしい。 | B- |

平成26年度（25年度事業対象） 宍粟市教育委員会事務事業評価結果

《学校教育》

- 基本目標 8 健やかな心と体を備えた人づくり
 実践目標 1 健康教育の充実
 2 体育・スポーツ活動及び文化活動の充実
 3 教育活動全体を通じた道徳・人権教育の確立
 4 生徒指導支援体制の確立
 5 いじめのない学校づくり

※評価指標
 「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる
 「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

| 基本目標に対する推進方針 | ◆成果指標（意図や達成度を示す指標） ◇実績値 ※数値では表し難い成果や実施状況 | 取組の成果及び今後の課題 | 自己評価 | 委員の意見・感想 | 委員評価 |
|--|---|--|------|---|------|
| 食育を含む健康教育や体力向上をめざしたスポーツ活動、情操を育む文化活動の充実を図ります。また、人間尊重の精神や生命に対する畏敬の念を培い、子どもたちの内面に根ざした道徳性の育成に努めるとともに、自他の生命を尊重する心や共に生きる心を育むための人権教育を推進します。さらに、子どもと教師の信頼関係を基盤とした生徒指導体制の充実を図ります。 | ①基本的な生活習慣の確立 ・「朝食を毎日食べていますか」の設問に「している」「どちらかといえばしている」と回答した児童生徒の割合 小学校 98.5% 中学校 96.4% ・夜10時ごろまでに寝ている児童生徒の割合 小学校 64.4% 中学校 8.4% ・朝6時30分ごろまでに起きている児童生徒の割合 小学校 65.1% 中学校 87.8% ②子どもと教師の信頼関係を基盤とした生徒指導体制の充実 ・児童生徒の問題行動等調査におけるその他（不良交遊、危険遊戯、指導無視、指導不服従など）の平均発生件数（1月当たり） 小学校 0件 中学校 22.3件 | ①基本的な生活習慣の確立 ・各学校において指導していただいているが、ライフスタイルの変化などにより劇的な改善にはつながっていない。 ②人権教育の推進 ・各学校、教育委員会事務局とも継続して熱心に取り組んでいるが、短期的なスパンで成果を検証することが困難である。また方法においてさらに魅力的なものとなるよう工夫を加えていく必要がある。 ③青少年育成センターの充実 ・相談件数や巡回指導件数なども増加し、充実が図られている。 ④いじめ対策の推進 ・マニュアル整備やアンケートの実施など環境整備を着実に進めている。 ⑤適応教室の拡充 ・現在は「さつき学級」のみでの対応となっているが、北部にも拠点を構築する必要がある。 ⑥宍粟市の児童・生徒の体力・運動能力の詳細な分析と対策の実施 ・悉皆となった児童生徒体力・運動能力調査の結果を詳細に分析し、宍粟市の子どもたちの現状を掴んだ上で、適切な対策を立案することが求められる。 | B+ | ○食育とともに基本的な生活習慣の確立に向けて、引き続き保護者への情報提供などの取組に努めてほしい。 小中学生の体力低下の取組も進めてほしい。 ○学校体育館等の多目的トイレ（障がいのある方も使用できるトイレ）が倉庫のようにになっている学校があると聞いた。人権教育として学校はもちろん地域や教育委員会も考えてほしい。 ○いじめ対応マニュアルなど、多くの人に知ってもらえるよう、情報提供の方法も検討してほしい。 | B+ |

- 基本目標 9 安全・安心の学校づくり
 実践目標 1 危機管理体制・マニュアルの整備
 2 地域の特性を踏まえた防災・防犯教育の推進
 3 ”地域で守る”学校安全体制の確立

※評価指標
 「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる
 「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

| 基本目標に対する推進方針 | ◆成果指標（意図や達成度を示す指標） ◇実績値 ※数値では表し難い成果や実施状況 | 取組の成果及び今後の課題 | 自己評価 | 委員の意見・感想 | 委員評価 |
|--|--|--|------|--|------|
| 宍粟市の自然条件・地理的条件等を踏まえて、子どもたちが自らの身の安全を確保することができるよう防災・防犯教育を推進します。また、登下校における安全確保や不審者の早期発見、大規模災害時の支援等、様々な場面で地域との連携が必要となることから、”地域の子どもは地域で守る”という意識の醸成を図るとともに、より開かれた学校づくりに努めます。 | ①「学校危機管理マニュアル(仮)」の整備 ・宍粟市地域防災計画 策定済 ・宍粟市避難所運営マニュアル 策定中 ・宍粟市食物アレルギー疾患対応マニュアル 策定中 ・宍粟市いじめ対応マニュアル 策定済 ②地域防災訓練の実施、推進体制の強化 ・山崎断層地震を想定した避難訓練実施率 100% ③学校安全ボランティア・見守り隊活動との連携推進 ・組織率 100% ・見守り運動などの実施率 100% | ①「学校危機管理マニュアル(仮)」の整備 ・「宍粟市避難所運営マニュアル」「宍粟市食物アレルギー疾患対応マニュアル」については原案の作成中であり、諸関係機関との調整にも手順が必要で、完成までにはさらに期間を要する。 ②地域防災訓練の実施、推進体制の強化 ・火災および地震を想定した避難訓練は確実に実施できている。 ③学校安全ボランティア・見守り隊活動との連携推進 ・見守り運動などについては各学校の地域性を考慮して確実に実施しているが、ボランティアの高齢化などで運動を継続していくことが難しくなっている校区もある。 | B+ | ○各種マニュアルが策定されていたり策定中であるが、最近、災害も多く、避難所運営マニュアルは早期に策定してほしい。 ○ボランティアの方々への感謝の気持ちを忘れないことが、次の支援者の誕生につながる。地域の支援をいただくため、学校・保護者・児童生徒も感謝の思いを持ち、そういう気持ちを伝える取組も大事にしてほしい。 | B- |

- 基本目標 10 家庭での子育てを支援する学校づくり
 実践目標 1 保護者の悩みに対応する相談体制の整備
 2 家庭・地域と連携した基本的な生活習慣の確立

※評価指標
 「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる
 「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

| 基本目標に対する推進方針 | ◆成果指標（意図や達成度を示す指標） ◇実績値 ※数値では表し難い成果や実施状況 | 取組の成果及び今後の課題 | 自己評価 | 委員の意見・感想 | 委員評価 |
|---|--|---|------|---|------|
| 教育の原点は家庭教育であるとの認識に立ち、子どもたちの成長に合わせて保護者自身も学び育つ保護者学習の充実を図ります。また、子育てに悩む保護者に対しては、子育てへの肯定感を育み、子育ての実践力を高める支援体制を整えます。 | ①SC（スクールカウンセラー）の支援を受けた相談活動の充実 ・SCを囲む会実施回数 11回 ②保護者のニーズに基づいた講演会の実施 ・子育て支援講演会実施率 100% | ①SC（スクールカウンセラー）の支援を受けた相談活動の充実 ・SCの支援活用について推進を進めている。 ②保護者のニーズに基づいた講演会の実施 ・講演会については各学校毎に着実に実施しているが、宍粟市全体での講演会や市人権・同和教育研究協議会（宍同教）と連携した講演会など方法においては研究を進めていく必要がある。 ・特別な支援を必要としている家庭への支援方法をさらに充実させていく必要がある。 | B+ | ○子育て支援講演会の実施率は100%だが、実際の参加率は低いとも聞く。せっかくの機会なので、時代や校区の課題にあった内容にするなど、参加しやすくする工夫をしてほしい。 | B+ |

平成26年度（25年度事業対象） 宍粟市教育委員会事務事業評価結果

| | | | | | |
|--------|----|------------------------|--|--|--|
| 《社会教育》 | | | | | |
| 基本目標 | 11 | 生きがいをもって学べる生涯学習の推進 | | | |
| 実践目標 | 1 | みんなが参加できる生涯学習事業の推進 | | | ※評価指標 「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる 「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない |
| | 2 | 学んだことが地域で活かせる事業の推進 | | | |
| | 3 | 学んだことがみんなに広がる取組の推進 | | | |
| | 4 | みんなが利用しやすい生涯学習施設の整備と充実 | | | |

| 基本目標に対する推進方針 | ◆成果指標（意図や達成度を示す指標） ◇実績値 ※数値では表し難い成果や実施状況 | 取組の成果及び今後の課題 | 自己評価 | 委員の意見・感想 | 委員評価 |
|---|--|---|------|--|------|
| 就労や子育てを担う世代の学習参加者を増やすため、学習ニーズの把握や学習機会・情報の提供の充実に努めます。また、市民大学や生涯学習講座で学んだ人が、地域の指導ボランティアや学習リーダーとして活躍するシステムづくりを進めます。 | 実践目標1 みんなが参加できる生涯学習事業の推進 高齢者大学学生数：1,247人 しろう学びパスポート所持者数：176人 実践目標2 学んだことが地域で活かせる事業の推進 実践目標3 学んだことがみんなに広がる取組の推進 文化展入場者数：7,022人 | 高齢者の生きがいや地域活動への参加を促すために、市内の4高齢者大学で、さまざまなテーマの講座を開催し、自己の教養や相互の交流を深める機会を提供することができた。各大学とも参加者が減少する傾向にあり、受講生の学習ニーズの把握や講座のテーマの検討が課題である。市民が各自の関心や目的に応じた自主的な学習活動に取り組むことのできる機会を提供するため、しろう学びパスポートを発行し、宍粟市民大学を開催した。市民のニーズに応じた生涯学習活動を支える事業として定着しつつある。受講生の学びの成果を地域活動に還元できる仕組みの構築が課題である。 | A | ○高齢者大学について、学生のニーズの把握調査などにより、内容がマンネリ化にならないような工夫や、学生の自主活動も含めて参加しやすい工夫が必要ではないか。 男性の参加率が低いと思うので、その点も含めて工夫してほしい。 | B+ |

| | | | | | |
|------|----|-------------------------------|--|--|--|
| 基本目標 | 12 | 人権を尊重するまち、子どもや青少年が健やかに育つ地域づくり | | | |
| 実践目標 | 1 | 地域や学校園所・関係機関と連携した人権教育の推進 | | | ※評価指標 「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる 「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない |
| | 2 | 人権を尊重した地域づくりや交流事業の支援 | | | |
| | 3 | 人権教育の推進と啓発活動の充実 | | | |
| | 4 | 地域で過ごす時間を増やす生活スタイル見直しの推進 | | | |
| | 5 | 家族や親子で体験できる活動の充実 | | | |
| | 6 | 青少年健全育成リーダーの発掘と資質向上研修の推進 | | | |
| | 7 | 家庭や地域・学校園所と連携した子どもと青少年の学習の支援 | | | |

| 基本目標に対する推進方針 | ◆成果指標（意図や達成度を示す指標） ◇実績値 ※数値では表し難い成果や実施状況 | 取組の成果及び今後の課題 | 自己評価 | 委員の意見・感想 | 委員評価 |
|--|---|---|------|---|------|
| 市民一人一人の人権が尊重され誰もが明るく幸せに暮らせるまち、子どもや青少年が健やかに育つまちづくりを進めます。推進にあたっては、同和問題をはじめ女性、子ども、高齢者、障がいのある人等の人権に関わる課題、さらには児童虐待、いじめ、インターネットによる人権侵害など、今日的な課題の解決に向けた学習機会を提供し、市民の人権意識の高揚を図ります。また、地域・職場・家庭等で交流する機会を設け、人権が尊重される地域づくり・職場づくり・家庭づくりに努めます。 併せて、地域の教育力を高めるとともに、地域ぐるみで子どもや青少年を守り育てる地域づくりを進めます。 | 実践目標1 地域や学校園所・関係機関と連携した人権教育の推進 生推協研修会等活動回数 171回 実践目標3 人権教育の推進と啓発活動の充実 市民運動推進月間事業・人権のタベ参加者数 約450名 実践目標4 地域で過ごす時間を増やす生活スタイル見直しの推進 実践目標5 家族や親子で体験できる活動の充実 青少年体験活動参加者数 401人 | 人権が尊重される社会の実現を旨として各生涯学習推進協議会や自治会において、人権教育をテーマとした研修会や学習会を開催し、グループ討議や意見交換などで学習を深めることができた。また、年度末に一年間の取組の実践発表会を開催し、相互の情報交換と交流の場となっている。人権学習会への参加者の固定化や誰もが参加しやすいテーマの選定や学習会の工夫が課題である。 「差別のない明るい住みよい宍粟市」を実現するため、人権のタベ講演会を開催し、人権意識高揚の啓発を行った。また、各生涯学習事務所においても講演会・映画会を開催し、人権啓発活動を実施した。 チャレンジ5DAYS、異年齢交遊塾等の宿泊体験活動等を通じ、青少年が心身ともに健やかに過ごし、規律ある生活習慣を身につける機会を提供することができた。少子化による参加者の減少や地域指導員の養成が課題である。 | B+ | ○今後も各種研修会・学習会・講演会など、参加者増につながる内容とするなどの検討・工夫をしてほしい。 | B+ |

| | | | | | |
|------|----|--------------------------------|--|--|--|
| 基本目標 | 13 | 読むこと・知ること・学ぶことを大切にした芸術・文化活動の推進 | | | |
| 実践目標 | 1 | 計画的な蔵書管理の推進 | | | ※評価指標 「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる 「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない |
| | 2 | 図書館施設や機能の充実 | | | |
| | 3 | 研修会の開催や図書館司書による読書活動の推進 | | | |
| | 4 | 地域の歴史・文化に関する学習や展示・講座の充実 | | | |
| | 5 | 歴史・文化遺産の体系的な保存整理と調査研究の推進 | | | |
| | 6 | 芸術・文化活動の振興 | | | |

| 基本目標に対する推進方針 | ◆成果指標（意図や達成度を示す指標） ◇実績値 ※数値では表し難い成果や実施状況 | 取組の成果及び今後の課題 | 自己評価 | 委員の意見・感想 | 委員評価 |
|--|--|---|------|--|------|
| 生涯学習社会をより進めるために、自主的な学習支援施設である図書館の重要性がますます高まっており、蔵書の充実や利用者の利便性の向上などが求められています。そこで、読書活動推進計画を策定し、市民が本に親しむためのより良い環境づくりに努めます。 また、歴史的建造物や史跡あるいは天然記念物、地域で受け継がれた民俗芸能や伝統行事など、宍粟市には多くの文化遺産があります。郷土への愛着や誇りを育み、大切な文化財を保護していくとともに、宍粟市の文化や伝統を次世代につないでいく取組を推進します。 | 実践目標1 計画的な蔵書管理の推進 市立図書館の蔵書冊数 133,711冊 図書館登録者数 9,012人 実践目標2 図書館施設や機能の充実 移動図書館の稼働回数 74回 実践目標4 地域の歴史・文化に関する学習や展示・講座の充実 中央学講座の回数 6回（受講者 574名） 実践目標6 芸術・文化活動の振興 美術作品展の入場者数 7,022名 | 平成25年度には、市町村振興協会図書整備支援事業交付金を活用し、蔵書数は総数133,711冊となり前年度より5,873冊増加した。移動図書館の巡回地域を増やし、図書館から遠隔地域の方にも図書を利用しやすいように努めた。 中心となる市立図書館の利用者の利便のためのサービス向上を図ることが今後の課題である。 市民が宍粟市の文化財や歴史に触れる機会を提供するために、中央学講座を計6回開催し延べ574名の受講者があった。歴史資料の展示施設が市内各所に分散するため、市全体の歴史文化をまとめて展示できる施設が課題である。 市内各地区において、美術作品展等を開催し、創作意欲の向上と市民が広く芸術作品に触れる機会を提供した。 | B+ | ○図書館について、新書の紹介コーナーや家庭的な雰囲気づくりなど、向上していると感じる。利用者数の増加は口コミによるものもあり、引き続き向上に努めてほしい。 千種では認定こども園に図書館を併設予定と聞けが、一定の静かさが必要だが、子ども達の声が聞こえたり、多くの方が利用されることで明るい開かれた図書館になるように希望する。また、他の図書館でも気軽に訪れて情報収集ができたり学べるような雰囲気づくりに努めてほしい。 図書館について、仕事を持っているても利用できるよう、閉館時間の延長など検討してほしい。 ○文化財について、調査によっては市内で国指定となりうるものもあるかもしれない。継続した調査等により、宍粟の文化財の格上げを望む。 | B+ |

平成26年度（25年度事業対象） 中央市教育委員会事務事業評価結果

《社会教育》

基本目標 14 「元気な中央」の実現をめざした生涯スポーツの推進

- 実践目標 1 生涯にわたるスポーツ・レクリエーション活動の支援
 2 競技スポーツの強化と振興の支援
 3 地域資源を活かしたスポーツ環境の充実
 4 安全に活動できるスポーツ施設の整備

※評価指標
 「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる
 「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

| 基本目標に対する推進方針 | ◆成果指標（意図や達成度を示す指標） ◇実績値 ※数値では表し難い成果や実施状況 | 取組の成果及び今後の課題 | 自己評価 | 委員の意見・感想 | 委員評価 |
|---|---|--|-----------|---|-----------|
| <p>スポーツ推進員やスポーツクラブ21の活動を強化し、すべての市民が楽しめるスポーツの普及に努めます。また、体育協会やスポーツイベントの充実と指導者の育成に努めます。</p> <p>中央市は、雄大な自然や清流を有しており、カヌーやスキーといったスポーツ・レクリエーション環境に適したフィールドが多くあります。それらを活用したスポーツによる市民の健康づくりや、都市部から訪れる人たちと市民が交流できるスポーツ活動の推進を図ります。</p> | <p>実践目標1 生涯にわたるスポーツ・レクリエーション活動の支援 スポーツ施設利用者数 155,762人 さつきマラソン・ロードレース大会参加者数 3,936人 実践目標2 競技スポーツの強化と振興の支援 スポーツ奨励金交付者数 3団体33名 実践目標3 地域資源を活かしたスポーツ環境の充実 カヌー利用者 7,192人</p> | <p>各スポーツ施設において、さまざまな人が自分の年齢や身体状況に応じたスポーツを楽しむ生涯スポーツの機会を提供することができた。</p> <p>中央市さつきマラソン・ロードレース大会等を開催し、参加者の健康づくりと、スポーツでの交流を通じた人づくり、地域づくり、都市部との交流に寄与することができた。地域のスポーツの指導や普及を支えるスポーツ推進委員の人材育成が今後の課題である。</p> <p>全国大会規模以上の大会に出場する団体や個人選手に奨励金を交付し、市内のスポーツ選手の競技意欲の向上や育成を支援することができた。</p> <p>音水湖を活用したカヌークラブによるカヌー体験教室や、自然・文化コースを取り入れたウォーキング大会等を実施し、中央市の地域資源を活用したスポーツ活動を行うことができた。</p> | <p>B+</p> | <p>○今後も、市内のスポーツ活動環境の向上や参加者が増えるような工夫に努めてほしい。</p> | <p>B+</p> |